

居間

がらんだりの居間に吊るされた青いシャツ
抜け殻のような今日
欲しいものは、実は何もない
失ったものを思い浮かべることが
生き続ける気持ちを押しやろうとする
小さなテーブルを囲む座布団が
暑熱を含んだ風に耐えている
どうしても明日を想うことができないのは
今日が孤立しているからだ知っている
途切れてしまった時間、そして生活
何をどう繋げばよいのか
どこをどう探せばよいのか
人に飢えた毎日をやり過ごす——
この飢えを満たすものが見つからない
蟻が部屋に忍び込んだので
ひたすら追いかけてみた——
そのようなものでしかない
諦念のうちに平穩を温める生活の中に
がらんだりの居間が私を匿っている
喉の渴きのない飢えというものを知った
薄れてゆく記憶に身悶えながら
輾転反側——眠りという時間に押しつぶされる
助けて欲しい
ただ、助けて欲しい
愛もなく、憐れみもなく
ただ、無条件に

(2012.7.30)